

## ◀1998年 東京大学(前期)▶

## ♠ 理 科

**1**  $a$  は 0 でない実数とする. 関数

$$f(x) = (3x^2 - 4)\left(x - a + \frac{1}{a}\right)$$

の極大値と極小値の差が最小となる  $a$  の値を求めよ.

**2**  $n$  を正の整数とする. 連立不等式

$$\begin{cases} x + y + z \leq n \\ -x + y - z \leq n \\ x - y - z \leq n \\ -x - y + z \leq n \end{cases}$$

をみたす  $xyz$  空間の点  $P(x, y, z)$  で,  $x, y, z$  がすべて整数であるものの個数を  $f(n)$  とおく. 極限

$$\lim_{n \rightarrow \infty} \frac{f(n)}{n^3}$$

を求めよ.

**3**  $xy$  平面に 2 つの円

$$C_0 : x^2 + \left(y - \frac{1}{2}\right)^2 = \frac{1}{4}, \quad C_1 : (x - 1)^2 + \left(y - \frac{1}{2}\right)^2 = \frac{1}{4}$$

をとり,  $C_2$  を  $x$  軸と  $C_0, C_1$  に接する円とする. さらに,  $n = 2, 3, \dots$  に対して  $C_{n+1}$  を  $x$  軸と  $C_{n-1}, C_n$  に接する円で  $C_{n-2}$  とは異なるものとする.  $C_n$  の半径を  $r_n$ ,  $C_n$  と  $x$  軸の接点を  $(x_n, 0)$  として,

$$q_n = \frac{1}{\sqrt{2}r_n}, \quad p_n = q_n x_n$$

とおく.

- (1)  $q_n$  は整数であることを示せ.
- (2)  $p_n$  も整数で,  $p_n$  と  $q_n$  は互いに素であることを示せ.
- (3)  $\alpha$  を  $\alpha = \frac{1}{1 + \alpha}$  をみたす正の数として, 不等式

$$|x_{n+1} - \alpha| < \frac{2}{3} |x_n - \alpha|$$

を示し, 極限  $\lim_{n \rightarrow \infty} x_n$  を求めよ.

**4** 実数  $a$  に対して  $k \leq a < k + 1$  をみたす整数  $k$  を  $[a]$  で表す.  $n$  を正の整数として,

$$f(x) = \frac{x^2(2 \cdot 3^3 \cdot n - x)}{2^5 \cdot 3^3 \cdot n^2}$$

とおく.  $36n + 1$  個の整数

$$[f(0)], [f(1)], [f(2)], \dots, [f(36n)]$$

のうち相異なるものの個数を  $n$  を用いて表せ.

**5**  $\theta$  は  $0 \leq \theta < 2\pi$  をみたす実数とする.  $xy$  平面にベクトル

$$\vec{a} = (\cos \theta, \sin \theta), \quad \vec{b} = \left(\frac{\sqrt{3}}{2}, \frac{1}{2}\right)$$

をとり, 点  $P_n, Q_n, n = 1, 2, \dots$  を

$$\begin{cases} \overrightarrow{OP_1} = (1, 0) \\ \overrightarrow{OQ_n} = \overrightarrow{OP_n} - (\vec{a} \cdot \overrightarrow{OP_n})\vec{a} \\ \overrightarrow{OP_{n+1}} = 4 \{ \overrightarrow{OQ_n} - (\vec{b} \cdot \overrightarrow{OQ_n})\vec{b} \} \end{cases}$$

で定める. ただし,  $O$  は原点で,  $\vec{a} \cdot \overrightarrow{OP_n}$  および  $\vec{b} \cdot \overrightarrow{OQ_n}$  はベクトルの内積を表す.  $\overrightarrow{OP_n} = (x_n, y_n)$  とおく. 数列  $\{x_n\}, \{y_n\}$  がともに収束する  $\theta$  の範囲を求めよ. さらに, このような  $\theta$  に対して, 極限值

$$\lim_{n \rightarrow \infty} x_n, \quad \lim_{n \rightarrow \infty} y_n$$

を求めよ.

**6**  $xyz$  空間に 5 点  $A(1, 1, 0), B(-1, 1, 0), C(-1, -1, 0), D(1, -1, 0), P(0, 0, 3)$  をとる. 四角錐  $PABCD$  の

$$x^2 + y^2 \geq 1$$

をみたす部分の体積を求めよ.

## ♠ 文 科

**1** 理科 **1** と同じ.

**2**  $a, b$  は実数で  $b \neq 0$  とする.  $xy$  平面に原点  $O(0, 0)$  および 2 点  $P(1, 0), Q(a, b)$  をとる.

(1)  $\triangle OPQ$  が鋭角三角形となるための  $a, b$  の条件を不等式で表し, 点  $(a, b)$  の範囲を  $ab$  平面上に図示せよ.

(2)  $m, n$  を整数とする.  $a, b$  が (1) で求めた条件をみたすとき, 不等式

$$(m + na)^2 - (m + na) + n^2 b^2 \geq 0$$

が成り立つことを示せ.

**3**

(1)  $x$  は  $0^\circ \leq x \leq 90^\circ$  をみたす角とする.

$$\begin{cases} \sin y = |\sin 4x| \\ \cos y = |\cos 4x| \\ 0^\circ \leq y \leq 90^\circ \end{cases}$$

となる  $y$  を  $x$  で表し, そのグラフを  $xy$  平面上に図示せよ.

(2)  $\alpha$  は  $0^\circ \leq \alpha \leq 90^\circ$  をみたす角とする.  $0^\circ \leq \theta_n \leq 90^\circ$  をみたす角  $\theta_n, n = 1, 2, \dots$  を

$$\begin{cases} \theta_1 = \alpha \\ \sin \theta_{n+1} = |\sin 4\theta_n| \\ \cos \theta_{n+1} = |\cos 4\theta_n| \end{cases}$$

で定める.  $k$  を 2 以上の整数として,  $\theta_k = 0^\circ$  となる  $\alpha$  の個数を  $k$  で表せ.

**4**  $xyz$  空間に 3 点  $A(1, 0, 0), B(-1, 0, 0), C(0, \sqrt{3}, 0)$  をとる.  $\triangle ABC$  を 1 つの面とし,  $z \geq 0$  の部分に含まれる正四面体  $ABCD$  をとる. さらに,  $\triangle ABD$  を 1 つの面とし, 点  $C$  と異なる点  $E$  をもう 1 つの頂点とする正四面体  $ABDE$  をとる.

- (1) 点 E の座標を求めよ .
- (2) 正四面体 ABDE の  $y \leq 0$  の部分の体積を求めよ .

**出題範囲と難易度****♣ 理科**

- 1 標準  II 微分積分
- 2 標準  A 数列・ III 数列の極限
- 3 標準  A 数列・ III 数列の極限
- 4 難  I 整数問題・ III 微分法
- 5 標準  A 数列・ B ベクトル(平面)
- 6 標準  B 空間図形・ III 積分法の応用

**♣ 文科**

- 1 標準  II 微分積分
- 2 標準  II 図形と方程式
- 3 標準  II 三角関数・ A 数列
- 4 標準  B 空間座標

**略解**

◇ 理 科

1  $a = \pm 1$

2  $\lim_{n \rightarrow \infty} \frac{f(n)}{n^3} = \frac{8}{3}$

3 (1) 証明は省略

(2) 証明は省略

(3) 証明は省略  $\lim_{n \rightarrow \infty} x_n = \frac{\sqrt{5}-1}{2}$

4  $26n + 1$  (個)

5  $\theta = 0$  または  $\frac{\pi}{2} \leq \theta \leq \frac{5}{6}\pi$  または  $\theta = \pi$  または  $\frac{3}{2}\pi \leq \theta \leq \frac{11}{6}\pi$

$$\begin{cases} \theta = \frac{\pi}{2}, \frac{3}{2}\pi \text{ のときは, } \lim_{n \rightarrow \infty} x_n = 1, \lim_{n \rightarrow \infty} y_n = -\sqrt{3} \\ \theta = \frac{5}{6}\pi, \frac{11}{6}\pi \text{ のときは, } \lim_{n \rightarrow \infty} x_n = -\frac{1}{2}, \lim_{n \rightarrow \infty} y_n = \frac{\sqrt{3}}{2} \\ \text{その他のときは, } \lim_{n \rightarrow \infty} x_n = 0, \lim_{n \rightarrow \infty} y_n = 0 \end{cases}$$

6  $4 + 4\sqrt{2} - 3\pi$

◇ 文 科

1 理科 1 と同じ.

2 (1) 右上図

(2) 証明は省略

3 (1) 右下図

(2)  $2 \cdot 4^{k-2} + 1$

4 (1)  $E\left(0, -\frac{7\sqrt{3}}{9}, \frac{4\sqrt{6}}{9}\right)$

(2)  $\frac{7\sqrt{2}}{15}$

